

プエラリア・ミリフィカ利用者へのインタビューデータの分析

- 購入の契機、情報収集の手段など -

藤井 仁¹⁾、湯川慶子²⁾、児玉知子³⁾

1) 目白大学看護学部

2) 国立保健医療科学院 政策技術評価研究部

3) 国立保健医療科学院 国際協力研究部

研究要旨

目的： 過去に健康被害が生じ、注意喚起情報が出されている健康食品 (プエラリア・ミリフィカ、ブラックコホシュ) を利用した者がどのような形で購入に至ったのか把握することを目的とした。

方法： プエラリア・ミリフィカを利用した経験を持つ関東地方在住の者を募集し、東京都内の会議室にて購入の契機などに関する個別のインタビューを行った。テキストマイニングソフトを利用し、文字起こしされたインタビューデータを形態素に分解し集計した。そののち共起ネットワーク分析を行い、同文中に出現し関連が深い単語がどのようなつながりを見せているかを確認した。

結果： プエラリアと関連が深い単語としてネット、検索、購入などの単語が表れている。また、ネットの近傍に口コミ、サイトなどの単語が表れており、これらのサイトを情報源としていることが推察できる。プエラリア・ミリフィカは豊胸を謳ったサプリであるため、頻出語には胸、(バスト) アップなどの単語が上位に確認できる。これらの単語の前後の文章を見ると、出産後の体形の変化や更年期前の体調の変化が購入のきっかけになっていることが確認できた。

結論： プエラリア・ミリフィカの利用者はインターネットに親和的であり、情報源としても購入手段としてもインターネットを活用しているため、インターネットを通じた正しい情報提供が重要だと考えられる。また、購入の契機に出産と更年期障害が関係していることが多く、これらに関連した医療機関からの情報提供なども重要であると考えられる。特に更年期障害に関しては、代替となる健康食品や医薬品等が数多く存在するため、スムーズに移行させるための情報提供が必要だと考えられる。

A. 研究目的

近年、保健機能食品や医薬品以外の、いわゆる「健康食品」による健康被害が断続的に発生しており、健康に高いリスクをもたらす成分を含む食品が法律の規制なしに流通している。このような現状を受け、国は 2018 年に食品衛生法を改正して、健康食品の原材料の安全性の確保、健康被害の情報収集、処理体制の整備について検討するとともに、消費者や事業者適切な情報伝達を促す仕組みの構築を実現しようと試みているが、消費者がどのような情報に基づき、どのような意図で健康食品を購入したかについては明らかではない。

そこで、本研究では、過去に健康被害が生じ、注意喚起情報が出されている健康食品を利用した者がどのような形で購入に至ったのか把握することを目的とした。

具体的には、健康食品のユーザに対するインタビュー調査を実施した。健康被害が生じた食品としては、スタイルアップ目的のプエラリア・ミリフィカ、ブラックコホシュを取り上げた。この中で、特にプエラリア・ミリフィカについては国からの注意喚起が行われているほか、健康被害に関する報告も行われている。これらの健康食品の購入者が、どのような特徴を持っているのかを明らかにすることで、今後の効果的な情報発信のた

めの参考資料となる。

B. 研究方法

プエラリア・ミリフィカ、ブラックコホシユに関する利用実態調査のインタビュー調査を2019年3月上旬に実施した。対象者の募集にあたっては、健康食品や化粧品などのモニター会社（生活向上web, <https://www.seikatsu-kojo.jp/>）の会員から、当該健康食品（プエラリア・ミリフィカ）を利用した経験を持つ関東地方在住の者を募集し、東京都内の会議室にて個別のインタビューを行った。

調査項目は、基本属性（性、年齢、学歴、健康状態等）、健康食品を買った契機（健康に関する不安の状況、買った健康食品の広告の内容、情報源等）等である。

約15分程度の簡単なアンケートで属性等を把握した後、約30分のインタビューを1回実施し、具体的な購入や摂取状況について調査担当者の問いかけに対して回答を求めた。インタビューは録音し、文字起こしした。

（分析方法）

テキストマイニングソフト KH Coder¹を利用し、文字起こしされたインタビューデータを形態素に分解し集計した。そののち共起ネットワーク分析を行い、同文中に出現し関連が深い単語がどのようなつながりを見せているかを確認した。関連の深さを表す指標には Jaccard 係数を用いた。

（倫理的配慮）日本薬科大学倫理委員会の承認を受けた（承認番号：日薬倫 30-7）。研究等の対象となる個人の人権の擁護、プライバシーの保全及び福祉の向上のために、研究で得たデータについては、モニター会社から個人情報を含まない形でデータの提供を受け、電子媒体に保管した。インフォームド・コンセントについては、説明事項を記載した同意書への署名を得た。

C. 結果

対象者は女性14名、平均年齢43.4歳であった。健康状態は、普通から非常に健康が9割以上であった（表1）。

表1 対象者の属性 (n=14)

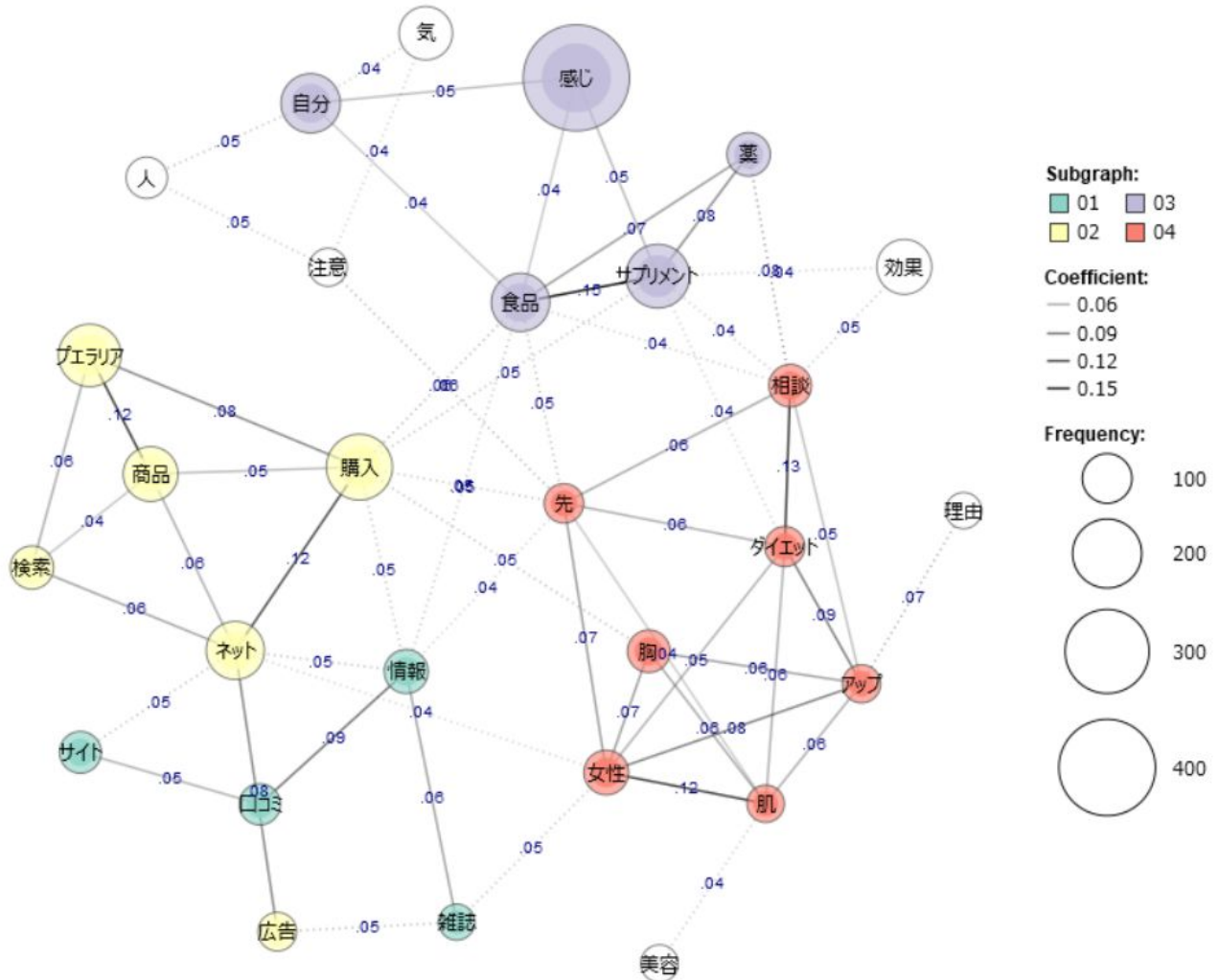
		n	%
性別	女性	14	(100.0)
	男性	0	(0.0)
年齢		平均 43.4 歳	
学歴	高校	3	(21.4)
	高専・短大	7	(50.0)
	大学・大学院	4	(28.6)
婚姻状況	既婚	6	(42.9)
	未婚	8	(57.1)
就労	仕事あり	11	(78.6)
	仕事なし	3	(21.4)
健康状態	非常に健康	2	(14.3)
	やや健康	6	(42.9)
	普通	5	(35.7)
	あまり健康でない	1	(7.1)
	全く健康でない	0	(0.0)

欠損・無回答を除く

表1 インタビューデータの頻出語(上位 100 語)

頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数
感じ	488	機関	41	チラシ	23
購入	182	関係	40	ニュース	23
サプリメント	170	メーカー	39	医者	23
プエラリア	163	スタイル	38	体重	23
自分	146	会社	38	値段	23
食品	141	症状	38	興味	22
ネット	140	成分	38	一緒	22
効果	124	ビタミン	37	改善	22
商品	123	インターネット	36	販売	22
女性	81	最初	36	アマゾン	21
情報	78	体調	36	具体	21
検索	75	目的	36	錠剤	21
相談	73	DHC	35	メール	21
サイト	70	喚起	34	終了	21
口コミ	68	利用	34	電話	21
ダイエット	64	食事	33	レベル	20
広告	59	名前	32	含有	20
アップ	58	プエラリア	32	仕事	20
注意	57	医師	30	気持ち	19
美容	55	楽天	30	更年期	19
雑誌	51	匂い	30	体型	19
生理	51	キャンペーン	29	イメージ	19
理由	51	使用	29	受診	19
記憶	49	比較	29	試し	18
サプリ	49	基本	27	自身	18
バスト	48	ホームページ	26	友達	18
話	48	種類	26	化粧	18
ホルモン	46	先生	26	質問	18
通販	45	病院	26	ご存じ	17
副作用	45	お話	26	店舗	17
テレビ	44	警告	26	年齢	17
医療	43	ご覧	24	友人	17
期待	43	エステ	24		
被害	42	参考	24		

図1 プエラリア・ミリフィカ利用者の頻出語の関連



分析に使用した文章は 5773 あり、その中から 94,415 の単語を抽出した。うち、分析には 28862 語を用いた。

表 1 は名詞に絞った頻出語のリストである。これを見ると、かなり上位にネット、サイトなどの単語が確認できる。図 1 でもそれは明白で、プエラリアと関連が深い単語としてネット、検索、購入などの単語が表れている。また、ネットの近傍に口コミ、サイトなどの単語が表れており、これらのサイトを情報源としていることが推察できる。上位 100 語には含まれていないが、友達 (110 位) 友人 (117 位) などの単語も多くみら

れ、身近な人からの勧誘や影響で購入に至るケースが散見できた。

また、これらの単語の近くに広告、雑誌などの単語も確認できる。前後の文章を確認すると、健康食品メーカーが送ってくる雑誌が購入の契機になっているケースが数例みられた。医療機関や公官庁、およびそれらのホームページは情報源として用いられておらず、身近なものの意見が重要視される傾向が確認できた。

プエラリア・ミリフィカは豊胸を謳ったサプリであるため、頻出語には胸、(バスト) アップなどの単語が上位に確認できる。これらの単語の前

後の文章を見ると、出産後の体形の変化や更年期前の体調の変化が購入のきっかけになっていることが確認できた。

D. 考察

プエラリア・ミリフィカの利用者はインターネットに親和的であり、情報源としても購入手段としてもインターネットを活用しているため、インターネットを通じた正しい情報提供が重要だと考えられる。しかし、官公庁や医療機関等の情報提供は利用されておらず、実際に商品名で検索してみても上位に厚労省や国の研究機関のホームページは表示されない。これらの公的なページの検索順位を上げるためにも、検索エンジン最適化などの試みが必要であると考えられる。

また、購入の契機に出産と更年期障害が関係していることが多く、これらに関連した医療機関からの情報提供なども重要であると考えられる。特に更年期障害に関しては、代替となる健康食品や医薬品等が数多く存在するため、スムーズに移行させるための情報提供が必要だと考えられる。その一環として国立健康・栄養研究所が管理するホームページ「健康食品の安全性・有効性情報」²において、プエラリア・ミリフィカの危険性と代替になる治療法等をまとめたものを公開する予定である。

E. 結論

プエラリア・ミリフィカの利用者はインターネットに親和的であり、情報源としても購入手段としてもインターネットを活用しているため、インターネットを通じた正しい情報提供が重要だと考えられる。また、購入の契機に出産と更年期障害

が関係していることが多く、これらに関連した医療機関からの情報提供なども重要であると考えられる。特に更年期障害に関しては、代替となる健康食品や医薬品等が数多く存在するため、スムーズに移行させるための情報提供が必要だと考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

参考文献

¹ KH Coder
<https://kncoder.net/>

² 健康食品の安全性・有効性情報

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/>